土佐日記

紀貫之

男もすなるといものを、女もしてみとて、するなり。

それの年ののあまりの日ののに、す。その、いささかにものに書きつく。

ある人、の果てて、例のことどもみなし終て、など取りて、住むよりでて、船に乗るべき所へる。かれこれ、知る知らぬ、送りす。年ごろよく比べつる人々な、別れがたく思て、日しきりに、とかくしつつ、ののしるうちに、夜けぬ。

－29－

に、の国までと、平らかに立つ。のときざね、船路なれど、のはなむけす。、ひきて、いとあやしく、のほとりにて、あざれあり。

い